

# Fukushima NOW

Vo. 1 (2016年8月発行)

当協会では、東日本大震災・東京電力福島第一原発事故の直後から今年3月までの5年間、広報紙「Gyro (ジャイロ)」の震災復興版として「がんばろう福島」を多言語で25回発行し、震災復興・復旧に向けた取り組みや国際交流・協力団体の活動等を国内外の皆様伝えてきました。この間いただいた皆様からの温かいご支援に心から感謝を申し上げます。引き続き、福島県の現状を正確にお伝えるため、これからは「Fukushima NOW」で、福島の現在の様子や県内で暮らす外国出身者の声を中心にお伝えしていきます。

## Voices from Fukushima

### 齋 立芳さん (中国出身・福島市在住)



1999年に来日し、以後日本と中国を行き来する生活を送ってきました。昨年秋から福島市での生活を再開し、2人の息子は福島市内の小・中学校に通っています。はじめは、2人とも学校生活になじめるか心配していましたが、周りの方の細やかなサポートのおかげで、元気に通学しています。未来のことを考えると、子どもたちには日本の高校へ通ってもらいたいので、まずは日本語の習得を最優先にして学ばせています。

6月に、外国にルーツを持つ子どもとその保護者たちが集まる宿泊交流会「多文化キッズキャンプ」に参加しました。息子たちは終始とても楽しそうでしたし、私も主催者や保護者のみなさんから子どもの学校生活や進路についての話をたくさん聞くことができました。また、同郷の方や他の外国出身の方との関わりが普段あまりなかったので、情報を共有することの必要性も感じました。



▲参加した「多文化キッズキャンプ」

自然災害は、いつ、どこで暮らしていても起こりうる怖さがあります。起こってしまったら動揺せず、平常心でいられるよう普段から心がけています。

### イスマイル・パフミさん

(インドネシア出身・福島市在住)

2014年夏に技能実習生として福島に来ました。日本語がほとんどわからず、東日本大震災や原発事故に関する福島の詳しいことも知らないことばかりだったので、当時千葉県で生活していた母国の先輩が心配してくれて、私が通える近所の日本語教室を教えてくださいました。ほぼ毎週通って、日常会話は困らないようになってきましたし、地震や風雨などの自然災害への意識も高まりました。また、日本語教室にはいろいろな国の方が学びにくるので、自分の国の文化や習慣について紹介するためにいろいろ調べて、新たに知ったこともありました。



▲日本語教室でのレッスンの様子

福島県には「コムニタス福島インドネシア」というインドネシア出身者のグループがあり、今年私はリーダーを務めています。定期的にメンバーが集まって、食事会を開いたり、みんなで県外へ出かけたり、地域のイベントに参加したりしています。福島県国際交流協会と協働でゴミの分別についての勉強会を開いたことがあり、今とても役に立っています。

日本での生活で関心を持ったことに積極的に関わってきて、行動力は可能性を広げることに気づきました。今後もチャレンジ精神を失わず、将来は日本とインドネシア両国がつながるような仕事をしたいと考えています。

## Scenes of Fukushima

### インド人学生のいわき市視察

2005年から2007年までいわき市内で外国語指導助手として勤務していたティア・カンサラさんが、現在教鞭をとっているインドのCEPT大学の学生18名を引率し、震災後のいわき市の状況を実際に目で確かめてもらうために、5月20日（金）～22日（日）にいわき市を訪れました。滞在期間中一行は、（公財）いわき市国際交流協会主催の自然と環境に配慮する日本人の考え方や具体例を学ぶスタディツアーに参加し、「クリンピーの家」で再生資源管理の試みについての話を聞いたり、「いわき・ら・ら・ミュウ」の震災関係の展示コーナーなどを見学したりしました。また、いわき市内で特に津波被害が大きかった薄磯・豊間地区を訪れ、復興が進む様子を視察しました。



▲「いわき・ら・ら・ミュウ」を見学する学生たち

### 会津若松市国際交流協会 設立 20 周年

会津若松国際交流協会は今年設立20周年を迎え、7月9日（土）、会津大学講堂にて記念イベントが行われました。約430名が出席し、アルピニストの野口健さんによる講演やパネルディスカッションが行われ、国際交流の必要性や会津と世界とのつながりについて改めて考える場となりました。



▲パネルディスカッションの様子

### JET プログラム 新規招致外国青年来日

語学指導などを行う外国青年招致事業（JETプログラム）で、今年度は47名が福島県に任用され、7月末から8月上旬にかけて来日しました。青年たちは、県内の小・中学校や高校の外国語指導助手や市町村の国際交流員として県内各地に赴任します。県民との国際交流や国際理解への貢献も期待されます。



▲来日したJET青年たち

### 多言語による復興情報ポータルサイト「ふくしま復興ステーション」

福島県が運営するウェブサイトの1つに「ふくしま復興ステーション」があり、福島県の復興状況や食の安全、県内の放射線の状況などを9言語（日本語・英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・スペイン語・ポルトガル語）で読むことができます。また、復興の状況について、画像やデータ等でよりわかりやすく解説している「ふくしま復興のあゆみ」は、4言語（日本語・英語・中国語・韓国語）で公表されています。

ふくしま復興ステーション URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/>



## FIA Information

### ○外国出身者のための生活相談窓口のご案内

当協会では、外国出身の方々のために外国語で生活相談に応じています。

- 英語・中国語・日本語 毎週火曜日～土曜日 9:00～17:15
- 韓国語・タガログ語・ポルトガル語 木曜日 10:00～14:00  
※第4・5木曜日は事前予約が必要です。

電話：024-524-1316（専用）

E-mail：ask@worldvillage.org（専用）

### 発行者

（公財）福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町2-1

福島県庁舟場町分館2階

TEL 024-524-1315 FAX 024-521-8308

E-mail info@worldvillage.org

URL <http://www.worldvillage.org>

